

1. アートプロジェクト

登壇者：中村 政人（なかむら まさと） 芸術祭総合ディレクター
 藤浩志（ふじ ひろし） アーティスト
 山梨 絵美子（やまなし えみこ） 千葉市美術館館長
 神谷 俊一（かみや しゅんいち） 千葉市長

タイトル：「なぜ千葉市に芸術祭が必要なのか？」

日時：2024年2月28日（水）10時30分～12時

会場：千葉市美術館さや堂ホール

概要：令和7年度に本会期を迎える芸術祭に向けて、芸術祭実行委員会委員長（千葉市長）、千葉市美術館館長、芸術祭総合ディレクター、アーティストによる対談を実施。

2. スクーリング事業

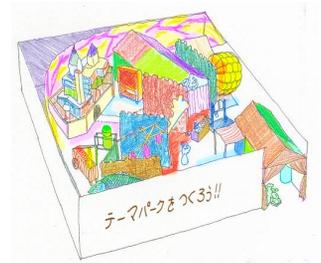
アーティスト：栗原 良彰（くりばら よしあき）

タイトル：「千葉市テーマパークをつくろう！」

日時：2024年2月28日（水）14時～16時

会場：千草台小学校

概要：小学生3年生以上を対象にし、千葉市で生活していて、自分が見つけた場所、自分しか知らないポイント・物事等を集めて、自分だけの『千葉市をテーマにしたテーマパーク』模型を作るワークショップ。継続して実施予定。



講師による制作イメージのスケッチ
 ©Kuribara Yoshiaki

3. アートプロジェクト

アーティスト：藤浩志（ふじ ひろし）

タイトル：「かえっこ in 花見川団地」

日時：2024年3月 ※日付調整中

会場：花見川団地 ※調整中

概要：いらなくなったおもちゃを「カエルポイント」に交換し、自分の欲しいおもちゃと交換（かえっこ）するなど、子どもたちが自発的にさまざまな活動や体験をする「遊びの場」をつくり出すアートプロジェクト。おもちゃを捨てずに循環させる仕組みは、教育、福祉、コミュニティ活動、環境などあらゆる領域の課題に対応する動きを誘発します。



4. アートプロジェクト

アーティスト：西尾 美也（にしお よしなり）

タイトル：（仮）西尾プロジェクト1

日時：2024年3月16日（土）午後 ※日時調整中

会場：千葉市美術館 ワークショップルーム又はアトリエ ※調整中

概要：参加型ワークショップを実施し、芸術祭期間中を通してアートプロジェクトに進化させていく。



5. アートプロジェクト

アーティスト：スローアートコレクティブ

タイトル：（仮）千葉駅西口プロジェクト

日時：2024年3月 ※日付調整中

会場：千葉駅 西口近辺 ※候補

概要：千葉市の窓口「千葉駅」近辺で芸術祭の機運を高める参加型プロジェクトを実施



千の葉の芸術祭 令和5年度 事業案

6.アートプロジェクト

アーティスト：栗原 良彰（くりばら よしあき）
タイトル：「千葉市テーマパークをつくろう！」
日時：2024年3月17日（日）2時間程 ※調整中
会場：千葉市美術館（仮）
概要：千葉市で生活していて、自分が見つけた場所、自分しか知らないポイント・物事等を集めて、自分だけの『千葉市をテーマにしたテーマパーク』模型を作るワークショップ。継続して実施予定。



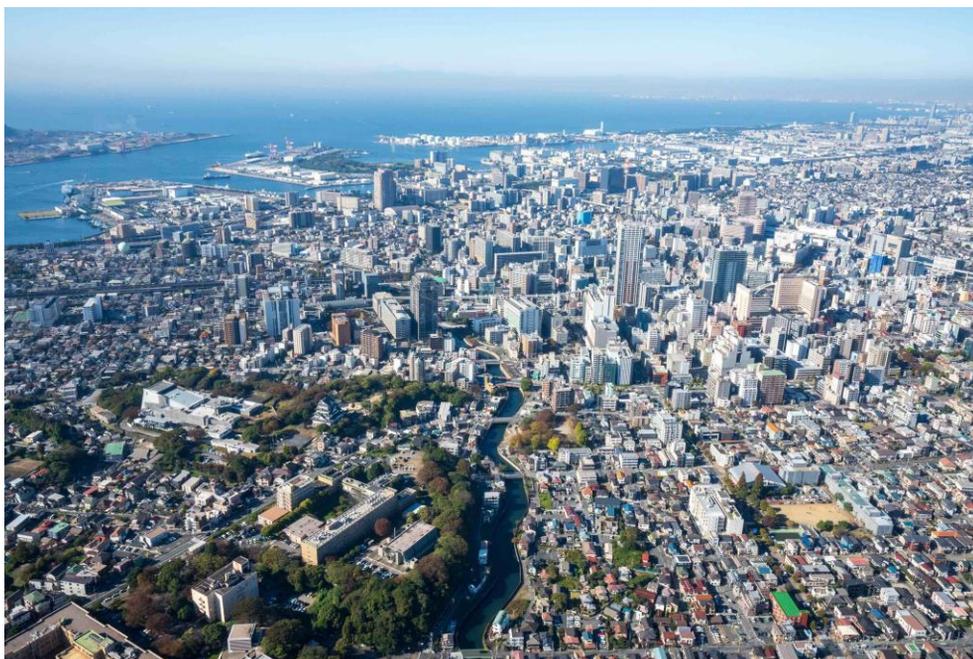
開催予定のプロジェクト本数

アートプロジェクト

- 1 なぜ千葉市に芸術祭が必要なのか？
- 3 かえっこ in 花見川団地
- 4 (仮) 西尾プロジェクト1
- 5 (仮) 千葉駅西口プロジェクト
- 6 千葉市テーマパークをつくろう！（美術館予定）

スクーリング事業

- ・千葉市テーマパークをつくろう！（アフタースクール）



1. 開催概要

タイトル：「なぜ千葉市に芸術祭が必要なのか？」

日 付：2024年2月28日（水）10時30分～12時

会 場：千葉市美術館 さや堂ホール

定 員：70名

対 象：どなたでも参加可能

参加方法：当日先着

登壇者	：中村 政人（なかむら まさと）	芸術祭総合ディレクター
	藤 浩志（ふじ ひろし）	アーティスト
	山梨 絵美子（やまなし えみこ）	千葉市美術館館長
	神谷 俊一（かみや しゅんいち）	千葉市長

2. 実施の基本方針

- ・令和7年度に本会期を迎える芸術祭に向けて、芸術祭実行委員会委員長（千葉市長）、千葉市美術館館長、芸術祭総合ディレクター、アーティストによる対談を実施。

わたしの千葉市テーマパーク（模型）を作ろう！

「千葉市」をテーマにしたテーマパークがあったら、どんなものになるだろう？

例えば、グルメ、有名人、歴史、自然、建物などなど、千葉市の自慢したいこと、おもしろいところ、みんなに見てもらいたいところや、自分しか知らない隠れたポイントなどを集めて自分だけの「千葉市をテーマにしたテーマパーク」を考えてみよう！

みんなのテーマパークにはどんなキャラがいるかな？どんな遊びができるかな？どんな体験ができるかな？

そういうアイデアを集めてそれぞれの千葉市を発見してテーマパーク模型を作ってみよう！

私たちが住んでいる千葉市ってどんなところかな？

千葉市の街をよく見てみよう！千葉市にしかない体験や景色があるはずだ！みんなのいろいろな千葉市を発見しよう！



講師による制作イメージのスケッチ
©Kuribara Yoshiaki

●開催概要案

タイトル : わたしの千葉市テーマパーク（模型）を作ろう！

会場 : 千草台小学校アフタースクール

日時 : 2024年2月28日（水）14時～16時

対象学年 : 小学校3年生～

定員 : 最大25名

参加料 : 無料

当日の持ち物 : 「参加者の事前準備」をご覧ください

講師 : 栗原良彰（アーティスト）、スタッフ2名



参考イメージ

WS概要 : 紙粘土、色画用紙、段ボールや発泡スチロール、スチレンボードで模型を制作します。

*制作に使用する材料は3331側で準備いたします

その他 : 制作した模型は一時保管後、市の施設で公開希望。展示終了後、返却予定。

●参加者の事前準備

千葉市の自慢したいこと、おもしろいところ、みんなに見てもらいたいところや、自分しか知らない隠れたポイントを考えてきましょう。例えば、グルメ、有名人、歴史、自然、建物など・・・

●ワークショップの流れ

1. [導入]テーマパークってなんだろう？
2. テーマパーク模型の下絵作り（模型下地に平面図を書いてみる）
3. 発泡スチロールなどで、模型製作
4. ポップ（吹き出し）を作って模型の説明
5. テーマパークの名称を書く
6. みんなでテーマパークを鑑賞

アーティスト紹介（講師） 栗原 良彰（くりばら よしあき）



1980年群馬県生まれ、在住。東京藝術大学大学院博士課程修了。博士論文『《F.E.S.-Fantastic Eccentric Show-》新たな「場」作りから生まれる世界』。

アーティストは、自由の体現者であるべきだという考えを持ち、従来のアートの制度に捕らわれることなく、アートが社会に対してアクチュアルに機能することを目的に活動している。特定の表現スタイルにこだわらず、彫刻や絵画、インスタレーション、ビデオ、パフォーマンス、映画、ワークショップなど、あらゆる表現方法で制作活動を行なっている。

アーティスト・藤浩志氏が発案した「かえっこ」は、遊ばなくなったおもちゃを「カエルポイント」に交換する仕組みを使って、子どもたちが自発的にさまざまな活動や体験をする「遊びの場」をつくり出す仕組みです。2000年に福岡でスタートして以来、さまざまな“かえる”（変える／還る／換える・・・）活動を通して、教育、福祉、コミュニティ活動、環境などあらゆる領域の課題に対応する動きを誘発してきました。その活動は国内だけでなく海外にも広がり、これまでに海外の美術館や全国各地の学校、保育園、商店街、公園、公民館、個人住宅、美術館、リサイクルプラザなど1000ヶ所以上の多様な場所で開催されてきました。この度、2025年にコア期間を迎える芸術祭のプレ企画として、花見川団地での開催をご提案いたします。



●開催概要案

タイトル : かえっこ in 花見川団地
 対象年齢 : 未就学児 ~ こどもの心を持ったおとな *未就学児は保護者同伴
 会場(候補) : 花見川団地 ※調整中
 日付(候補) : 2024年3月 ※調整中
 参加について : 遊ばなくなったおもちゃをお持ち下さい ※おもちゃを持ってこなくても参加できます
 参加料 : 無料

●かえっこのしくみ

1. 参加者は家から遊ばなくなったおもちゃを会場にもってきます。
 2. 「かえっこバンク」で遊ばなくなったおもちゃを査定してもらい「カエルポイント」に替えます。
 3. たまった「カエルポイント」で会場にあるおもちゃを買います。
- * 「かえっこレジ」で「カエルポイント」の分だけおもちゃを買うことができます。
 * 「カエルポイント」を増やしたい時やおもちゃを持ってきていない時は、運営のお手伝いをしたり、同時開催のワークショップ(内容検討中)に参加すると「カエルポイント」がもらえます。

●おもちゃ査定基準

[そこそこのもの] 1ポイント [まあまあなもの] 2ポイント [なかなかのもの] 3ポイント
 *他に[凄くいいもの=感動ポイント]も設定。感動ポイントは4ポイント以上付与。
 *通常は「かえるスタッフ」として参加することもがおもちゃを査定する。今回は大人が対応予定。

●会場スタッフ構成(予定)

- ・マネージャー ×1名
- ・「かえっこレジ」「かえっこバンク」×2名
- ・会場整理、値段づけ ×2名
- ・記録係 ×1名

●会場について

少し大きめの長机(240cm×120cm目安)
 ~ 体育館級の広さまで実施可能

●感染症対策

- ・形状や材質によって十分な消毒ができないおもちゃは、当日の交換対象にならない場合があります。



アーティスト紹介(考案者) 藤浩志(ふじひろし)



1960年鹿児島生まれ。奄美大島出身の両親の影響で大島紬周辺で遊ぶ。京都市立芸術大学在学中演劇に没頭した後、地域をフィールドとした表現を模索。同大学院修了後パプアニューギニア国立芸術学校に勤務し原初の表現と文化人類学に出会う。バブル崩壊期の再開発業者・都市計画事務所勤務を経て土地と都市を学ぶ。「地域資源・適性技術・協力関係」を活用した美術表現を志向し、全国各地でプロジェクトを試みる。取り壊された家の柱素材の「101匹のヤセ犬の散歩」。一ヶ月分の給料からの「お米のカエル物語」。家庭廃材を利用した「Vinyl Plastics Connection」「Kaekko」「Polyplanet Company」「Jurassic Plastic」。架空のキーパーソンをつくる「藤島八十郎」等。NPO法人プラスアーツ副理事長。十和田市現代美術館館長を経て秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科・アーツ&ルーツ専攻教授、NPO法人アーツセンターあきた理事長。